

2020年4月5日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「成し遂げられた」

聖書：ヨハネによる福音書19:17～30

今日から受難週に入る。17 節に「イエスは、自ら十字架を背負い」とあるが、他の福音書では、途中「キレネ人シモン」が登場して、むち打たれ、衰弱して十字架を担ぐことの出来なくなったイエスの代わりに十字架を担がされるが、しかしヨハネ福音書には、シモンは登場しない。イエスは、自ら十字架を背負ったというふうに描かれている。その他にも、十字架の前の苦しみ祈るイエスの「ゲッセマネの祈り」もない。ヨハネ福音書は、十字架へと向かうイエスの姿、十字架に対し、逃げ隠れしないキリストを強調している。

そして 30 節に、十字架上で「成し遂げられた」と言う。これはただ単に「終わった」というものではなく、もう少し積極的に「実行する、最後まで貫徹する」という意味合いがある。「イエスは、自ら十字架を背負い」、「最後まで貫徹する」「成し遂げられた」ということを、ヨハネ福音書は強調している。では、その十字架とは何か？ 罪の赦しの十字架……。福音書はその罪の赦しの十字架……。ということで終わっているのではない。ヨハネ福音書 16 章 33 節に、この世での勝利宣言が成されている。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」と。このことは、十字架に勝利したキリストが、十字架にかかる以前にこの世での勝利宣言をしている。

十字架は、ただ単に罪の赦しの十字架というだけでなく、いやむしろ、十字架とは、この世の様々な苦難であり、悲しみであり、嘆きであり、そのすべてをキリストは担ったということ。この世で苦難がある者、悲しみ、嘆きがある者の十字架を、あなたの十字架を、イエス様が担ったということ。今なお、あなたには苦難があるか？ 今あなたは悲しんでおられるのか？ 拭い去ることのできない嘆きがあるか？ そのあなたの十字架を共に担っておられるということであり、そのあなたに「勇気を出しなさい」と語っておられるのである。

最後に、私たちの教会は、昨日緊急の臨時拡大役員会を行い、「新型コロナ感染対策、礼拝の持ち方について」話し合った。今ある苦難に勇気をもって向き合い、今できる最善を尽くそうとしている。来週からは教会に来ての礼拝をやめ、ネット配信にて各家庭での礼拝を始める。この苦難を皆さんと一緒に乗り越えて行きたい。必ずこの状況は収まり、私たちは勝利する。

十字架上で「成し遂げられた」とおっしゃった、十字架に勝利したキリストに 希望を置きつつ、この苦難に向き合っていこう。(神谷)